

## 保健外交を通して見る日本の存在感

コロナウイルス感染症の世界的流行によって国々は分断され、世界は大きく変わってしまいました。フィリピンを含めアジアのいくつかの国々では、感染症の拡大防止や経済の回復など、難しい問題に直面しています。

日本はアジアの先進国として、コロナ禍においてもこれらの国々に対して医療体制強化や経済再生支援等の協力を続

けており、新たな国際保健のあり方が作り上げられていく中で、多くの国々から日本のリーダーシップに期待が寄せられています。

外交の最前線の舞台となる大使館では、保健分野の外交を通じて、日本が世界に果たす役割がますます大きくなっていることを強く感じます。

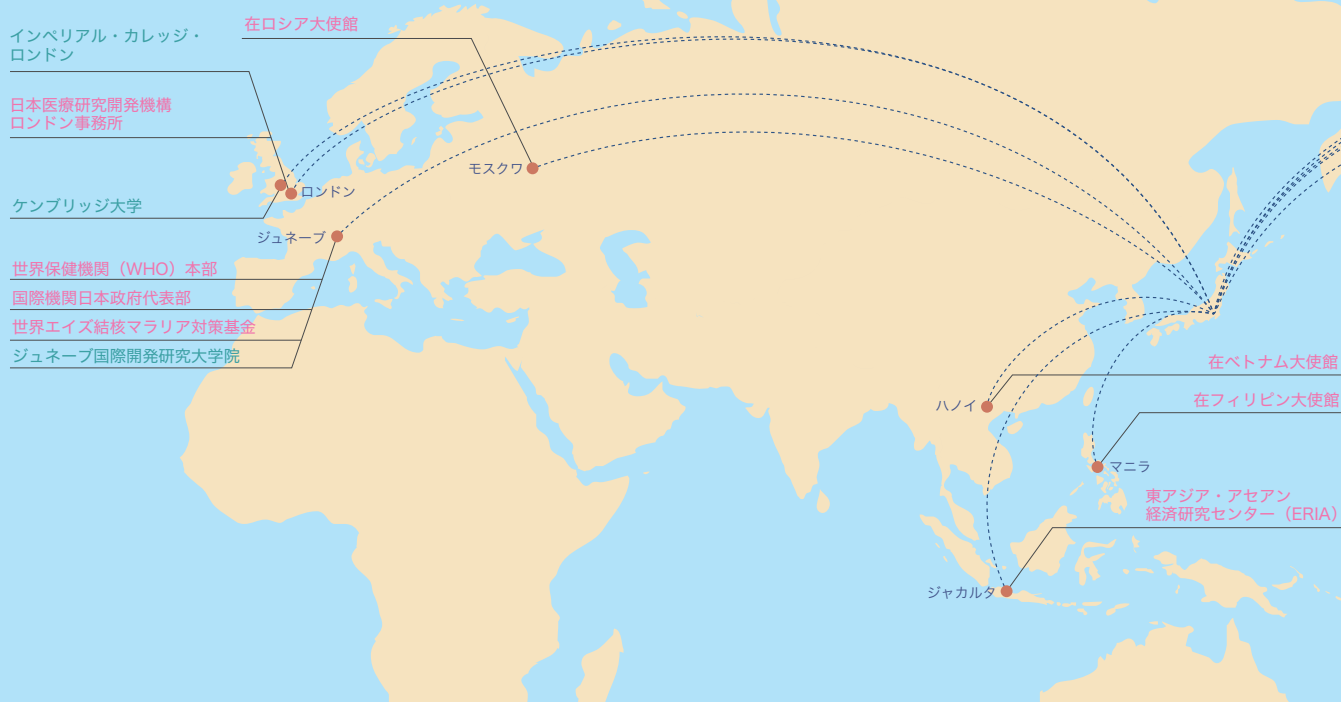


在フィリピン大使館一等書記官

岡田 岳大

OKADA Takeo

## 世界で活躍する医系技官



人事院短期在外研究員(米国保健福祉省)

矢野 好輝

YANO Yoshiteru

## 世界の保健医療をリードする米国の厚生省

米国ワシントンD.C.にある保健福祉省(HHS)は、疾病予防管理センター(CDC)、国立衛生研究所(NIH)、食品医薬局(FDA)などの著名な組織を擁する、日本の厚生労働省に相当する組織です。日本の厚生労働省の約6倍の人員を擁しており、すべてが桁違いです。新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機

に健康危機管理のあり方が注目される中、同時多発テロ(9.11)など歴史的な事件を経て整備された米国の危機管理体制から学ぶべきことは大変多いと感じます。日本の今後の政策に生かせるよう、法律、予算、組織、人材育成など様々な観点から、日々調査研究に取り組んでいます。